



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



糖尿病医療学について

〔当法人評議員〕

東京医科大学八王子医療センター

小林 高明 [医師]

『糖尿病医療学』という言葉はご存じですか？

日本糖尿病医療学学会ホームページから引用すると、『糖尿病を持つ人、その人たちをケアする人、ケアする人をケアする人、取り巻く環境や社会それらの人たちのところと行動に焦点を当てて、糖尿病臨床—医療を学ぼうとするもの』です。

私がこの学会を知ったのは、8年前東京医大本院から八王子医療センターに異動し、入院での教育(学習)を通じても入退院を繰り返す方たちの問題に再度直面した時期です。入院中に導入可能な心理的な指導や退院後の支援を当時模索し心理の研究会にも参加していました。そのような時期にこの学会を知り、活動内容を把握しないままにまず足を運んでみようとしたのが京都大学講堂で秋に開催された2017年の糖尿病医療学学会でした。参加すると、一事例検討に30分をかけて出席者で構成する5名程度のグループで討論し結果を発表するという通常の学会とは全く異なる形式で、最初こそ戸惑いましたが周囲の各職種の方たちも各々同じような思いを抱えて京都まで参集している同士で、自由闊達な意見交換の中に新たな発見や学びがあり大変有意義な学会参加でした。驚いたのは学会のスピーカーをされていたのが私の恩師である故植木 彬夫先生であったことです。植木先生とは東京医大を定年退官後も研究会等で頻回にお会いしていましたが、医療学学会のことは全く話題には上らず、その中で患者指導に悩んでいた私が自ら門戸を叩いたこの学会で既に活躍中の植木先生に偶然再会したことは驚きでした。私は八王子医療センター研修医時代に内分泌代謝内科に配属され当時診療科長であった植木先生と一緒に夜遅くまで仕事に励み、糖尿病治療とは食事、運動、薬物治療のみならずそれらを融合させた全人的な関わりが極めて重要であることを学びました。そしてこの分野の臨床に興味を持ち当時進もうとしていた他の内科から進路を変更して今日に至ります。植木先生から当時学んだ全人的な関わりの重要性は意識せぬままDNAの如く私の内部にインプットされ、これまで診療を継続していたことを再認識させられる機会でした。

以後糖尿病医療学学会で私自身も発表を重ね関東地方会の発表内容は本誌で学会報告として紹介しました。その後も糖尿病医療学学会は順調に発展を遂げて現在は5月開催の日本糖尿病学会学術総会にて糖尿病学会、糖尿病医療学学会の合同シンポジウムが開催されています。本年も5月19日に東京国際フォーラム第5会場で開催予定です。もしご興味があれば参加を検討してみたいはいかがでしょうか。また10月には京都で医療学学会総会も例年通り開催予定です。興味が深まればこちらにも参加をお勧めします。(討論の内容はより深い印象があります。)まずは5月の合同シンポジウムで皆様とディスカッションできるのを楽しみにしております。学会場で私を見かけましたらお声掛けいただければ幸いです。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 ロコモティブシンドロームに含まれる疾患または状態として誤っているのはどれか、1つ選べ。

(答えは3ページにあります)

1. 変形性関節症
2. 骨粗しょう症
3. サルコペニア
4. 脊柱管狭窄症
5. 軽度認知機能障害



報告

第10回西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス

日時: 令和6年1月18日(木)
オンライン

1月18日(木)Web配信にて『第10回西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス』が当番世話人の鈴木診療所 院長 笹本 和男先生および市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 副部長 加計 剛先生のご挨拶により開催されました。

特別講演は、鈴木診療所 笹本 和男先生のご司会で、昭和大学医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 主任教授 山岸 昌一先生より『糖尿病患者の抗加齢医療』と題しご講演いただきました。山岸先生は終末糖化産物(AGE)研究の第一人者でございます。そのような中、山岸先生より糖尿病に長らく罹患していると高血糖が持続し、生体内のタンパク質が糖化されやすく、その後の糖尿病合併症の進展を左右するとのお話がございました。AGEを抑える食事・生活習慣のお話もあり、医師、看護師、管理栄養士等、幅広い医療関係者の皆様が目から鱗の講演内容でございました。



パネルディスカッションは、『動脈硬化を意識した糖尿病治療』をテーマに、市立青梅総合医療センター 加計 剛先生のご司会で、町田市民病院 糖尿病・内分泌内科 部長 伊藤 聡先生および東京都立多摩南部地域病院 糖尿病内科 副部長 本城 聡 先生より勤務医の立場からパネリストを務めていただきました。多くの先生方に活発なご意見・ご質問をいただき、大いに盛り上がりました。

Webでの開催となりましたが75名の方々に視聴いただき大変有意義な会となりました。

報告

西東京CDEの会 第22回症例検討会

日時: 令和6年2月7日(水)
オンライン

[当法人会員] 武蔵野赤十字病院 志賀 和美 [看護師]

2月7日(水)に西東京CDEの会企画による「第22回症例検討会」がオンライン(Zoom)にて開催されました。今回は「多職種で考える・家族まとめて糖尿病療養指導ー子供が糖尿病といわれたらー」というテーマで、町田市民病院の糖尿病看護認定看護師 横内 沙織先生より小児糖尿病の症例を提示いただき、20名の参加者が3つのグループに分かれて症例検討を行いました。

私のグループでは、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士と、まさに多職種の構成でした。全員が普段小児と関わることがほとんどないという状況でしたが、症例が取り組める食事・薬物・運動療法について、沢山の意見が出ました。例えば、運動療法では、あえて、「運動」という言葉を使わずに、遊びや生活の中で身体を使うことができるように、現在使用しているゲーム機でスポーツや身体を動かすタイプのソフトを使用したり、YouTube等のコンテンツを使い自然と身体を動かすことができれば良いのではないかと意見が出ました。また、母親だけに負担がかからない様、家族全員で取り組めること、学校等、患児をとりまく関係者の支援が必要であること、できるだけ楽しく継続できることを視点に沢山の意見が出ました。

ミニレクチャーは、国家公務員共済組合連合会 立川病院 矢島 賢先生より「肥満と2型糖尿病」というタイトルで、小児・思春期の糖尿病の知識と、患児・家族への支援、スティグマなどの社会問題等について、ご教授いただきました。参加者からは、小児から成人へのトランジションについての質問が聞かれ、医療者との信頼関係についても考える場となりました。

企画側として、小児をテーマにしたことで不安もありましたが、対象が成人でも高齢者でも、多職種のチームの力のすばらしさと連携して支援を繋げていくという意識の大切さを実感できる会となりました。

グループワーク

- ①Aくんとご家族が取り組める食事療養はどんなものでしょうか
- ②Aくんとご家族が取り組める運動療養はどんなものでしょうか
- ③Aくんは今は糖尿病の薬は使用していませんが、使うとしたら何が考えられるでしょうか
- ④Aくんとご家族を支えるための、なにか素敵なアイデアを教えてください(びつくりするようなアイデア募集!!)



第58回糖尿病学の進歩

令和6年2月16日(金)～17日(土)
国立京都国際会館

[当法人評議員]
クリニックみらい立川
菅原 加奈美 [看護師]

令和6年2月16日(金)・17日(土)、国立京都国際会館に於いて「第58回糖尿病学の進歩」が開催されました。世話人の近畿大学 池上先生が冒頭でお話しされましたが、年次学術集会が主として最先端の研究発表の場であるのに対して、糖尿病学の進歩は生涯教育、糖尿病における最新の知識や技術、臨床・研究面における最近の進歩を学ぶ学会です。そして、医師メディカルスタッフが一同に会し、議論する場でもあります。講演だけでなく、シンポジウムや特別企画など活発に意見交換がなされていたように実感しました。



印象に残った2つの講演を紹介します。1つ目は当法人の東京医科大学八王子医療センター 天川 淑宏先生「運動療法の見える化と療養指導」。有酸素運動、レジスタンス運動に留まらず、ストレッチを取り入れることで、心と身体が動きたくなる運動療法の実践についてのご講演がありました。看護師や医師が診察室や療養指導室でできる、ワンポイントの支援はありませんか？と私の質問に、天川先生のご回答は、その場で会場の医療者全員に自らご指導のもとストレッチを行い、効果を実感するというまさに運動療法の妻さを実体験するものでした。天川先生、ありがとうございました。

2つ目は、島根大学医学部 内科学講座 金崎先生「透析予防外来における療法指導」。近10年で腎症進展リスクが高い方へのSGLT2阻害薬の保護効果を目の当たりにしているが、実際には医療者の不作為とも考えられるようなエビデンスに基づかない診療が行われている事もある。果たして、今自分たちが行っている診療は、目の前のハイリスク症例に対して本当にupdateされているのであろうか？といつも疑問を持ちながら、それを問いかけ続ける努力が専門家には求められる。EBMが正しく実践されれば大きく透析療法が抑制されることは間違いないと語られました。療養指導士に求められることとして、食事や運動、療養支援が最先端医学に基づいた依頼になっているか？を主治医と話し合いや提案ができるチーム医療であってほしい。自己管理の目的・目標も最先端のエビデンスに基づいて日々updateすべきである。updateなき療養はあり得ない。最新収集知見はAIの力を借りても必ずすべきである。ですが、それを使いこなす技術、最後に「人」を動かすのは、やはり「人」である。多くのメッセージの詰まった講演で大変心が動かされました。

終了後は西東京の皆さんと本日の講演について韓国料理を食べながら様々な情報交換をし、現地に行き顔のみえる学会も、やはり楽しいな…と実感できた本年の「糖尿病学の進歩」でした。



読んで
単位を
獲得しよう

答え **5** 下記の解説をよく読みましょう。
解説

(問題は1ページにあります。)

ロコモティブシンドローム(ロコモと略)は日本整形外科学会が提唱した概念で、運動器(骨・関節・軟骨・筋肉等)の障害により移動機能の低下を来した状態と定義されている。またサルコペニアは、ロコモの基礎疾患のうち、筋肉量・筋力低下によるもので、歩行障害や転倒の原因となり加齢に伴って生じやすい。一方、軽度認知機能障害は認知症の前駆状態と考えられ、ロコモに含まれる疾患・状態とは異なるため誤りは5となる。



研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 昭島市医師会学術講演会 -Dual Seminar in 北多摩-

 申込必要

開催日：2024年5月22日（水）19:00～20:30
 会場：Zoom / 昭島市医師会館（JR青梅線「拝島駅」下車 徒歩13分）
 申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください
 問合せ：住友ファーマ㈱（担当：柿田）メール：keiko.kakita@sumitomo-pharma.co.jp
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位
 ☆日本医師会生涯教育制度：1単位
 ☆日糖協糖尿病認定医取得のための講習会

 参加費
無料

ハイブリッド

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第26回研修会

 申込必要

テーマ：『リブレの新段階、そしてウィズをいかに使いこなすか？』
 開催日：2024年6月18日（火）19:20～21:00
 会場：Zoomにて開催いたします
 参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/18締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

オンライン

 2024年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第20回 西東京教育看護研修会
 第20回 西東京病態栄養研修会
 第20回 西東京薬剤研修会
 第8回 西東京臨床検査研修会
 第8回 西東京運動療法研修会

オンライン

開催日：2024年7月7日（日）9:25～16:30 ※運動療法のみ16:35開会
 会場：Zoomにて開催いたします ※運動療法のみハイブリッド開催(会場：杏林大学 井の頭キャンパス)
 参加費：早割[申込開始～5/19] 6,000円 / 通常[5/20～6/27] 7,000円
 申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の
 「2024年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」より
 お申し込みください。(6/27締切)
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中 他

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

 糖尿病支援の相談室では、会員の皆様からの質問および回答をお待ちしております

普段の糖尿病支援において、何かお困りのことなどあればご遠慮なくご投稿ください。各専門家の先生方からのご回答も是非お願いいたします。



糖尿病支援の相談室

糖尿病療養支援におけるご質問を投稿いただき、各専門家、他の会員様からの回答を募集することができます。

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/> Email:info@cad-net.jp

編集後記



今月、5月17～19日は糖尿病学会年次学術集会が開催されます。2018年以来の東京開催となり、現地参加される方も多いのではないのでしょうか。学会やセミナーも通常の開催が戻ってきており、現地参加の良さを感じていますが、オンデマンドは現地にいなくてもいつでも参加でき、ハイブリッド開催は非常に良い形式だと思っています。今回もオンデマンド配信もあり、じっくり楽しめそうです。
 (広報委員 永田 美和)